

第6回例会プログラム

日 時 1995年10月7日(土)

会 場 大手前女子短期大学 Bホール

ワークショップ 10:30-12:00

《OED 第2版 CD-ROM 版の実演と基本的利用法》 司会 新井 洋一

講師 渡辺 秀樹・服部 典之・大名 力・木村 まきみ

協力 紀伊國屋書店電子情報課

会場 大手前女子短期大学 OA 実習室

総合司会 神戸大学 西村 秀夫

開会の辞 12:50 大阪大学 齊藤 俊雄

帰朝報告 13:00-13:40 「ヴィクトリア大学 (ニュージーランド)

におけるコーパス利用の現状」

大東文化大学 山崎 俊次

司会 有明工業高等専門学校 田畑 智司

研究発表 13:40-14:20 「動詞接頭辞 (verbal prefix) to-の変遷について

—Helsinki Corpus を検索して」

豊田高専 神谷 昌明

司会 佐野女子短期大学 保坂 道雄

講演 14:25-15:15 「ネットワーク時代における電子化テキスト」

姫路獨協大学 森下 淳也

司会 追手門学院大学 丸谷 満男

シンポジウム 15:30-17:50

《OED 第2版 CD-ROM 版と英語コーパス研究》

司会 中央大学 新井 洋一

「英語学の術語・引用文・語義の区分の見直し」

講師 大阪大学 渡辺 秀樹

「日本語からの借入語の特徴」 講師 大阪大学院生 木村まきみ

「言語コーパスとしての語法研究」 講師 中央大学 新井 洋一

「接続詞用法の-ly 副詞とその周辺」 講師 群馬大学 大名 力

「19世紀英国帝国主義時代の『ロビンソン・クルーソー』の

受容をさぐる」 講師 大阪大学 服部 典之

閉会の辞 17:50 大手前女子短期大学 西村 道信

懇親会 18:00-19:30 会場 大手前女子短期大学教授会室

第6回例会発表レジュメ

◇ワークショップ

《OED 第2版 CD-ROM 版の実演と基本的利用法》（新井洋一他）

午後の部のシンポジウムとして「OED 第2版 CD-ROM 版と英語コーパス研究」があるが、特にまだ使用経験のない方を主な対象に、コンピューターを実際に用いて、その実演と基本的利用法について講習会を行う。

使用機種は NEC の Pentium マシンで、Windows 版のソフトウェアを使用する。時間の許す範囲で、PC98 シリーズ対応のために日本語版の開発にあたった、紀

伊國屋書店電子情報課の担当者への技術的な質疑応答の時間も設ける。

◇帰朝報告

○山崎俊次

「ヴィクトリア大学(ニュージーランド)におけるコーパス利用の現状」

1993年にヴィクトリア大学言語学科により、LOB コーパスに範を取ったウェリントン・コーパスが作られた。Dr. Laurie Bauer を中心に、1986年から1990年に出版された文献から100万語が収集されて、代表的ニュージーランド英語としてのウェリントン・コーパスが完成したのである。

そこで言語学科では、学部から大学院までの学生の興味に応じて、コンピューターを利用してLOB コーパスやウェリントン・コーパスの文法や語彙の研究ができるようなシステムになっている。また、Dr. Graeme Kennedy を中心とした応用言語学科では、TESOL の観点から natural language としてのコーパスを利用して語彙教育研究が盛んである。教科書に使われている英語をコーパスと比較・研究している海外からの大学院留学生在が数多くいる。

大学のメインコンピューターを使って concordance をしたり、あるいは CD-ROM を用いて、各学科の PC を利用したりする学生もたくさんいる。とにかくヴィクトリア大学は、コンピューター利用・コーパス利用がとても盛んである。この状況を現地で撮影したビデオを使って報告する。

◇研究発表

神谷昌明

「動詞接頭辞(verbal prefix) to-の変遷について

—Helsinki Corpus を検索して—

古英語(OE)において接頭辞 to-は主に動詞に結合し、複合動詞(Compound Verb)を形成した。OED によれば、「接頭辞 to-は、OE において 'asunder, apart, in pieces'を表し、125 の動詞に結合した。中英語(ME)以降 to-の用法は変遷し、1500 年以降、接頭辞 to-の用法は、ほとんど見られなくなる。」

本発表では、OED, Hall (1960), 丹羽(1991)等の to-の分類を踏まえて、Helsinki Corpus の中では、動詞接頭辞 to-がどのような形で現れるのか、考察してみたい。

使用ソフトは Micro-OCP であるが、発表者は今年の 3 月までは、パソコン、OCP に関しては全くの初心者であったので、基本的なプログラムしか組めないが、発表者と同様な初心者の参考になるように、具体的に OCP 等の操作についても述べてみたい。

◇講演

森下淳也「ネットワーク時代における電子化テキスト」

コンピュータが普及して以来、最も多く蓄えられている情報はテキストであるといっても過言ではないでしょう。多くの場所でワープロが入力され、様々な形で利用されています。これらのテキストから機械的に更に情報を引き出すという作業、テキスト処理も盛んに行なわれてきました。

これとは独立に発達してきたことですが、コンピュータの普及とその性能の向上、そして利用形態の変貌によって、幾つかの新しいスタイルがテキストという形態に注ぎ込まれようとしています。

DTP (Desktop Publishing)は性能の向上したコンピュータの上で、かなり精度の高い組版を可能にしてくれます。これはテキストの構造化された情報と看做すことができます(塗り絵に対する CAD のようなものです)。

ハイパーテキストはそれ自身、古くからの概念ですが、インターネットの普及で爆発的な広がりを見せました。テキストから情報を引き出すという点で、今後のデータベースの在り

方にも大きな影響を与えそうです。広がりを持ったテキストの出現です。

ここでは、新しく普及してきた技術が提供してくれる概念を浮き彫りにして、新しい電子化テキストの像を捉えることを考えます。

◇シンポジウム

《OED 第2版 CD-ROM 版と英語コーパス研究》（司会 新井洋一）

OED 第2版 CD-ROM 版(OED2-CD)は、前回の1989年版では未収録だったサプリメント全4巻の内容と5,000語の新語(義)を追加して盛り込み、書籍版の第2版と同じ内容のものに改訂された。このOED2-CDは、書籍版では限界のあるさまざまな利用法が可能であるにもかかわらず、実際の利用は、書籍版に比べてまだまだ極めて少ないように思われる。

このシンポジウムでは、OED2-CDによる興味深い利用法や、その結果得られる有意義な研究成果を、それぞれの発表者によって異なった観点から紹介してもらうことを目的とする。そして英語コーパス研究に有用なOED2-CDの利用価値と意義について検証していただければ、幸いである。

○渡辺秀樹「英語学の術語・引用文・語義の区分の見直し」

A Supplement to OED, 4 Vols. (1972-86)の編集方針では、今世紀に発展した諸分野の専門用語を充実させることがうたわれており、英語学・言語学の大量の術語が採録された。それらはOED第2版に組み込まれ、今やCD-ROM版により様々な検索が可能になった。

本発表においては、英語史(古英語・英訳聖書の語彙・辞書論)研究者のフィロロジストの立場から、OED第2版に見える英語学・言語学の術語とその用例を調査し、用例採録の範囲・用例追加の際の恣意性・語義区分と見出し語のStatus (e.g. Obs.)やLabeling (e.g. Linguistics)の見直し・データ抽出の際の不純物とそれらが生ずる原因について述べたい。

○木村まきみ「日本語からの借用語の特徴」

OED2-CDによると、日本語からの借用語が、見出し語だけでも約340語検索できる。採録語の分野は芸術・工芸関係の語から食品関係や格闘技関係の語など、多岐にわたっている。また、各分野の語の借用時期はそれぞれ異なり、その時代を反映している。借用の初期から

の綴りや発音の変遷も記載されている。

採録されている語のほとんどが名詞で、しかも借用の古さにも関わらず、常に単複同型で用いられている語の数が多い。しかし多数採録されている日本語の中で、実際人々に知られている語は少なく、逆によく知られているのに採録されていない語もあり、採録語に偏りが見られる。特に 1940 年代以降格闘技関係の語の採録が急激に増え、その傾向は OED Additions Series にも見られる。また地名などの固有名詞では、*etymology* の欄に *Japanese* の標識がないものもあり、検索をする場合に注意が必要である。見出し語以外に記録されている日本語の検索は、*text* 検索で行わなければならない。

○大名 力「接続詞用法の-ly 副詞とその周辺」

-ly 副詞の *immediately* には、副詞としての用法に加え、次の例に見られるように、‘*as soon as*’, ‘*the moment (that)*’ 等の意味を表す接続詞としての用法(-ly 接続詞)がある。

Immediately he had completed his conversation he returned to the tribunal headquarters.

英語には-ly 接続詞以外にも他の品詞から転用された接続詞が存在するが、-ly 接続詞は、(a) 数が少なく(*immediately*, *directly*, *instantly* の 3 語のみ)、かつ容認度が語により異なる、(b)方言の違いによる容認度の差が大きい、(c)構文として不安定なところがあるなど、他の接続詞と比べて派生的であると考えられる特徴を示す。

本発表では、まず、現代英語の-ly 接続詞の意味的・統語的特徴について見て、なぜ-ly 接続詞がそのような特徴を持っているのかについて、その歴史的な成立過程を考慮にいたした分析を行い、さらに、-ly 接続詞や *the moment (that)*~ などの関連構文について、OED2-CD から採取した用例を基に、この分析が歴史的な言語事実とも合うことを示したい。

○新井洋一「言語コーパスとしての語法研究」

代表的な言語コーパスである *Brown Corpus*, *Lancaster-Oslo/Bergen Corpus*, *London-Lund Corpus* そして *Louvain Corpus of Modern English Drama* などのコーパスは、現代英語の語法研究にとっては基本的なコーパスである。しかし収集用例は今世紀のものに限られているために、通時的な語法研究を必要とする場合には限界がある。

たとえば、‘*be busy in ~ ing*’の前置詞 ‘*in*’ が、いつ頃から脱落し始めて ‘*be busy ~*

ing'という現代の用法として確立してきたかというような研究は、現代語のみを対象として収集したコーパスだけでは、不可能である。本発表では、このような現代語のみを収集した大規模コーパスの弱点について例証するとともに、その点を補うコーパスとしての OED2-CD の価値について、具体的事例をあげて考察したい。

○服部典之「19 世紀英国帝国主義時代の

『ロビンソン・クルーソー』の受容を探る」

1719 年に書かれたデフォーの『ロビンソン・クルーソー』について、OED2-CD で引用されている部分を調べると、19 世紀半ばのエディションが使用されている割合が圧倒的に多い。『クルーソー』の OED の読みは、ヴィクトリア朝期の読みだと言えよう。しかも、18 世紀の散文の中でも、この作品が引用されている箇所が際立って多いという単純な事実からも、ヴィクトリア朝でこの作品が大きな関心を引いていたということが伺える。

この背景には、ヴィクトリア朝において、個人の努力で孤島への幽閉状態を逆転させる強靱なるクルーソー像への共感があったこと、そして帝国主義最盛期に、クルーソー的なものが部分拡大されて存在していたこと、などが考えられる。本発表では、英国植民地主義勃興の原点として、新たな光が当てられている『クルーソー』が、約 1 世紀半後帝国主義最盛期にどのように受容されたかということ、引用部分の単語解釈と、OED2-CD に引用されているデフォーについての研究書を通じて、コンピューターのテキスト処理言語を用いながら探る。